



学校だより

はくれい

白山市立白嶺小学校
白山市立白嶺中学校
第18号
令和7年3月6日

やりがいを持って働く人に学ぶ ～中1職業講話～

【北國新聞 R7.2.1 朝刊より】

地元で働く意義について学ぶ生徒
＝白山市白嶺中

地元で働く意義学ぶ 白嶺中で職業講話



白山市白嶺中の職業講話「働く人に学ぶ会」は31日、同中で開かれ、1年生6人が地元で働くことの意義について理解を深めた。

北國新聞社の宮本章史広報部長が講師を務めた。北國新聞の記者は地域に溶け込み、住民に寄り添って取材をしていると紹介し、「地元紙を読み、ふるさどを知ることが将来の職業を選ぶためのヒントにもなる」と述べた。

続いて「金沢まいもん寿司」を展開するエムアンドケイ（金沢市）の渡部晃市さんが、今の仕事に就いたきっかけや社会人としての心構えについて話した。

職業講話の目的は様々な職業や働くことへの関心を高めるため、今後は職業に対する視野をさらに広げ、2年生で実施予定の職場体験へと繋げていきます。

講師のお二人は、あらかじめお送りした全員の自己紹介カードによく目を通され、皆さんに会えるのがとても楽しみで、質問にもできるだけお答えしたいとおっしゃっていました。また、必要な資格、中学生の間にやっておくと良いことにも触れていただき、明日からの学校生活にも大いに生かせるお話でした。生徒らは熱心に聴き、メモをとったり積極的に質問をしたりして、将来の職業選択の参考にしました。



卒業生に感謝の気持ちを込めて ～ 小学校編 ～

2月21日(金)、小学校では「6年生を送る会」が行われました。1～5年生が、6年生に向けて感謝の気持ちを劇や絵、クイズなどで表現しました。これまで、たて割り班活動や学校行事などを通して優しく教えてもらい、心強い声をかけてもらった6年生へ感謝の気持ちを表現力豊かに伝えました。

そして、6年生自身も、これまでの成長を温かく支えてくださった家族や先生、友達や下級生に感謝の心がこもった発表をしてくれました。「6年生ってすごいなあ」と思わせるプレゼンでした。会を盛り上げ、司会進行を立派にやりきった5年生。てきぱきと行動し、スムーズに運営する姿はお見事でした。6年生からしっかりとバトンを受け継ぎ、新年度に向けてよいスタートをきることができました。



児童が企画 本格野球教室

ミリストと電話交渉 選手招く

白山・白嶺小中「成功できて良かった」

プロ野球独立リーグ・日本海リーグの石川ミリオンスターズの選手を招いた野球教室が、白山市白嶺小中学校であった。教室を企画したのは白嶺小の児童たち。子どもたちは野球の楽しさに触れたほか、アイデアを実現する難しさや楽しさを学んだ。

(中尾真菜)

教室は、白山市吉野谷地区の地域組織「吉野谷コミュニティ」が主催する吉野谷子ども会議の一環。子ども会議は、アイデアを実現する楽しさを子どもたちに知

し、昨年6、8月に企画案を考え、野球教室は、6年の合田侑生さん(11)が「中学でも野球をするので、その前にプロから教えてもら」と期待する。

コミュニティ会長の笹山昌仁さん(64)は「実行できたら楽しい、自分が出ることが人の役に立ったという達成感を味わってもらえたら」と期待する。

野球教室は2月26日にあり、白嶺小中学校や地域の学童野球クラブに所属する児童生徒など計35人が参加。同市鳥越地区出身で外野手の森路真選手(23)が講師を務め、投球や打撃を指導した。打撃練習では、森選手が「真つすぐ立つてから、ボールを見てスイングして」などとアドバイス。子どもたちは一生懸命にバットを振り、ボールが遠くに飛ぶと歓声を上げて喜んだ。

柴山さんは「柔道をしているが、野球もやりたいという気持ちになった」と話し、宮腰さんは「最初はできるか分からなかったけど、成功できて良かった」と笑顔を見せた。

今後は、白山野々市広域消防本部防災学習センター(同市三浦町)や市内の商業施設を訪れるほか、キャンプや釣りを企画している。笹山さんは「地域の人に見てもらい、子どもたちが認められる場面をつくると、やりがいができる。地域の人の目に付く活動にしていけたら」と話した。



⑤子どもたちと交流する森路真選手⑥森選手と打撃練習をする児童⑦いずれも白山市白嶺小中



～新しいことに挑戦した君へ～

やってみたくいことを、いくつも考えたでしょう。

どうすればできるか、時間をかけて話し合ったでしょう。

やってみるために、みんなで力を合わせたでしょう。

終わった時には、おおぜいの人からあなたのおかげと感謝されたでしょう。

でもそれ以上に、あなたはまわりの支えに感謝したことでしょう。

やってよかったと思った今、あなたは想像以上に進化しているはずです。